



平成 25 年 11 月 26 日  
第 3 号 (秋号)  
南つくし野 小学校  
南つく蝶プロジェクト  
代表 河野哲也

## ツマグロヒョウモンと気候の温暖化

河野哲也

ここ数年、タテハ蝶科のツマグロヒョウモンを見かける機会が多くなりました。アゲハチョウの華やかさには負けるものの、雌の粹な紋様は魅力的であります。

因みに、私の手元にある「原色千種 **昆虫図鑑**」昭和 16 年 5 月 30 日第 44 版（三省堂発行）を紐解いてみますと（以下原文のまま）、

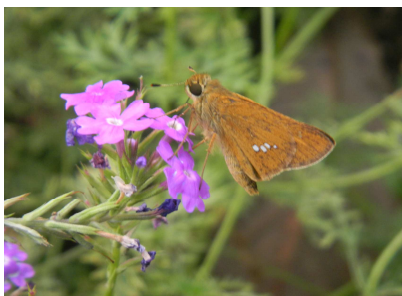
**【ツマグロヒョウモン、タテハテフ科**：雌雄色彩斑紋を異にす。雄翅地色は少しく淡色、前翅の表、裏面に雌の如き青藍色及び白帯を欠く。**暖地に多し**。幼虫はすみれの葉を食す。**本州（西南部）、四国、九州、琉球、台湾に産す。**】

と記載されており、本来の分布は、本州では西南部（定説では静岡以西）まででありました。小さな虫の変動の中に、大きくは地球規模の変動を、小さくは地域の環境の変化を見ることが出来ます。ツマグロヒョウモンの北上は、日本の気候変動（温暖化）を物語る一つの事例であります。

蝶の飛び交う街づくりの目標は、蝶による身近な自然の復活を子供達と共に実現することにあります。蝶の世界、虫の世界を通して自然の変化を知り、環境の変化を読む。次世代の博物学が子供達の体験から生まれることが期待されます。

## 近所のチョウの紹介

近所の Y さんからチョウの情報が届きました。



イチモンジセセリ (8 月 13 日)  
バーベナの蜜を吸っている。



アゲハ (8 月 31 日)  
庭の植木で。



ヒメアカタテハ (9 月 15 日)  
畑のニラの花に蜜を求めて。

近所での目撃情報も待っています。

校内のスミレの葉でもたくさんのツマグロヒョウモンが育ったよ！  
見つけた人いるかな？



## 9月21日 花だんの花植え

バタフライガーデナーの岩切創さんにご指導いただき、中庭にチョウを呼ぶための花だんを作りました。花だんに腐葉土を入れ、参加した子どもたちが苗を植え、名札を付けました。植えたケイトウ、ニチニチソウ、レースラベンダー、アオイなどは、アゲハなどの蜜源になります。

岩切さんは、チョウの来る庭をデザインするバタフライガーデナーです。横浜市青葉区を本拠に活躍中です。腐葉土の作り方などのお話もありました。

翌週、校庭の三角花だん（図書室前の花だん）にも花を植えていただきました。

こちらには、ジャコウアゲハの好きなウマノスズクサ、アサギマダラの好きなユーパトリウムなどちょっと変わったチョウを呼べる植物も植えました。まだ、小さな苗ですが、ぜひ、みなさん見てください。チョウが来ていたらチョウポストにお手紙くださいね。



ウマノスズクサ

## 10月19日 自然観察会（東工大内 加藤山）

お父さんたちの案内で、東工大構内の加藤山にて自然観察会を開催しました。

シラカシ、マテバシイ、アラカシなどのどんぐりや、ホコリが出るキノコのオニフスベ、カラスウリなどの植物の他、死んだふりをする白黒のパンダゾウムシ（オジロアシナガゾウムシ）、カマキリの卵、その他、秋の虫の観察をしながら散策をしました。

どんぐりにはゾウムシが入っています。冷凍する、2～3日水につけておき、乾かす、などで虫が出てくるのを防げます。

## 11月16日 花だんの観察

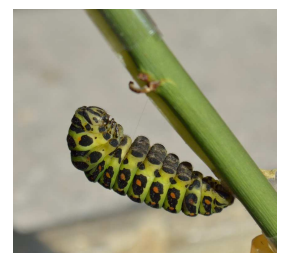
9月に苗を植えた花だんの植物やキアゲハのさなぎになるところ、ヤマトシジミの幼虫とさなぎの観察などをしました。



10月19日 加藤山



11月16日 三角花だん



キアゲハの前蛹